



## ちよっぴり心があったかくなる時間

最近発行されている学年団通信や学級通信を見ていると、昨年とは大きく変わりつつある生徒たちの姿が描かれています。昨年度末にスタートした「Re・TAKUCHU PROJECT」の第1弾として実施された人権集会やマスコットキャラクター作成などの特別な取り組みだけでなく、日々の学校生活の中で変わろうとしている姿こそが本物です。態度が変わっているのは、まぎれもなく「心」が変わっている証です。

また、学級通信に、道徳の時間の感想などがよく紹介されているのも今年の特徴です。先生方が、今まで以上に道徳の授業に力を入れて取り組んでくださっていることがよくわかります。きっとその時間を中心にしっかりと心を耕していただいているからこそ、心が変わっているのだと思います。

今の子どもたちは、人間としてよりよく生きていく基礎となる社会体験、自然体験などが不足し、生命を大切にす心や他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識、倫理観などが十分に育っていないと言われています。どんなに時代が変わろうとも、大切にしなければならないものを教えるのが道徳です。

平成14年度、全国すべての小・中学生に『心のノート』が配布されました。そして、昨年度、学習指導要領の改訂に伴い、道徳教育の一層の充実が図られることを踏まえ、心のノートも一部改正されました。下の詩は、新しく追加されたものです。人間としての生き方についての関心が高まってくるものの、悩みや葛藤などの心の揺れを感じやすい中学生の時期に、心の声に耳を傾け、私はどうありたいのか、あるべき自分の姿は何なのかと問いかける、自分自身の物語を描いていくことの大切さを訴えている詩です。

この人生は だれのものでもなく  
私自身のものだから  
自分の力で 立ち  
自分の力で 歩いていきたい  
一度しかないから  
だれにも任せられない  
私が描く 自分自身の物語  
今はまだ わからないこともたくさんある  
できること できないこと  
夢と希望 不安と恐れ  
まわりに流されそうになったり  
だれかにふりまわされたり  
投げやりになったり  
そんなときは 心の声に耳をすますと  
聞こえてくるんだ  
私は どう在りたいのか？  
これは、在るべき自分の姿なのか？  
簡単に答えは出ないけれど  
いつも問いかけながら 歩いていくよ  
他のだれでもなく 私自身であるために  
これが自分だと 胸を張って言えるように  
この人生の主人公は 私なのだから  
自分自身で描きたい  
私の中の 一番輝いている自分を

「子どもは教えて育つものではなく、感じて育つものである」（西部教育事務所だより『無一塵』から）という言葉を見ました。様々な資料をもとに、過去を振り返り、今の自分を見つめ、そして未来に思いをはせることで、子どもたちは何かを感じ取ってくれることでしょうか。もっともっと変わろうとするきっかけとなるよう、“ちよっぴり心があったかくなる時間”を大切にしていきたいと思います。

## 明日はPTA総会です

授業時数を確保するため、これまで午前中に行っていた授業参観や総会を、午前中に4時間授業をした後、午後から実施することにしました。また、総会の後に部活PTAも行います。1年生の保護者の皆様にとっては、部活動も大きな関心事だと思われるので、顧問から部活経営等についての説明を行います。このように、学校行事もこれまでのやり方を見直し、よりよいものに変えていこうとしています。事前調査では、授業参観には多くの方が出席いただけるものの総会への出席者が少ない状況です。変わろうとしている詫間中学校をより知っていただくためにも、是非とも多くの方に新体育館へお越しくださるようお願いいたします。